

令和4年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標	① 生徒の安全・安心な生活を保障するため、環境整備と今の社会情勢に応じた実践的教育の充実を図る。 ② ICT環境を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 ③ 社会生活を送る上で、人としてもつべき規範意識を身に付ける。 ④ 個に応じた自立活動の充実を図るとともに、キャリア教育を推進する。 ⑤ 保護者や地域および関係機関との連携を強化し、社会参加に必要な資質・能力を育てる。 ⑥ 感染症防止の観点から、健康観察、手洗い・換気・マスク着用等を徹底する。 ⑦ 教職員が健康的に教育活動及び業務に従事できる環境を整えていく。		
※以下の各項目(分掌)の重点目標は、上記の「本年度の重点目標①～⑦」に関連した内容を設定した。どれに関連しているかを下記の「重点目標」の末尾に番号で示した。			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	経過報告と今後の課題
学校生活の充実 (高等部)	挨拶と礼儀正しさの定着と、規範意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、礼儀正しさ、身だしなみ、ルールやマナーについて、全職員で一貫した指導を行う。</li> <li>生徒、職員がお互いを信頼しあい、相談がしやすい雰囲気をつくる。困ったときの相談の仕方や、適切な解決方法を伝える。</li> <li>感染症予防やルールについては、なぜ必要なのか考える機会を設け、自分にも他人にも、安全を意識した思いやりある行動を選択できるようにする。</li> <li>意欲をもって活動に参加する姿勢を育めるように、実践的な活動と、振り返る機会を設ける。</li> </ul>	「ルールを守ること」や「友達や教師との接し方」に課題のある生徒5名を対象とした。担任や学年主任と支援方法や目指すゴールについて意見を交換しながら、直接または間接的に指導してきた。3名は、課題が改善され、落ち着いて過ごしている(令和5年1月16日現在)。1名は、課題の一つであった「無断で早退する」ことはなくなり、終日授業に参加できている。そのような変容が認められるものの、貴重品の管理が杜撰であったり、無断で遅刻をしたりするなど、引き続き個に応じた支援が必要である。残りの1名も、教師への言動や生活習慣などに課題が見られるため、期待される変容は認められないと判断した。
	③		
学習指導の充実 (教務部)	新学習指導要領の円滑な実施を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三観点による評価ができるよう、授業改善を実施する。</li> <li>特別の教科道徳の実施方法や評価方法を研究する。</li> </ul>	三観点を取り入れた評価ができるよう、研修や部会、教科会等を通して情報提供を行った。また、要録の様式及び個別の指導計画、学習の記録の様式についても、変更を進めた。保護者に対しては、保護者会で説明をした。三観点の評価については、まだ教務としても整理ができていない部分もあり、共通理解が充分とはいえない結果となった。今年度の反省や意見を基に、改善していく必要がある。 特別の教科 道徳の評価について、教務担当者が主導して、指導内容の評価方法などについて確認した。教科会等で情報共有しながら進めることができた。
	②		
教員研修の充実 (研修部)	教員の資質向上のための研修体制、内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現職研修及び教職経験者研修を核として、計画的な研修会を実施する。</li> <li>自立活動の指導内容や指導方法について、これまでの指導の実践をまとめたり、見直したりする。</li> </ul>	eラーニングでの研修では、全職員のうち未回答2名、未実施2名、87%の職員が実施した結果となった。チェックリストについては、3年間継続して利用できるための有効な運用方法について見直しをし、教務部と連携しチェックリストの項目について検討した結果、項目、形式等、大きく変更をした。今後はチェックリストの利用を通して職員・生徒の意見を取り入れながら改良していきたい。
	①③④		
情報機器活用のための環境づくり (総務部)	情報機器活用のための環境整備や研修を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器活用のための環境を整備し、授業での活用を促進する。</li> </ul>	生徒用タブレット端末の利用規程を策定し、生徒、保護者、職員に周知するなど、利用・管理体制を整えた。利用しやすいよう見直しを進めている。大型ディスプレイの利用マニュアル作成、ネットワークの拡張、生徒用タブレット端末の共有フォルダー作成など利用促進につながる取り組みを行った。今後は職員への情報提供や研修を行い、利用方法を周知できるとよい。
	②		

生徒の安心安全を守る体制づくり(生徒指導部)	交通ルール及びマナーの意識向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルールの理解やマナーの向上を目指し、交通事故を未然に防ぐ。</li> <li>登下校時における規範意識を高め、乗車マナー等の向上を図る。</li> </ul>	日頃の下校指導や交通安全講話により、学校周辺道路の危険箇所を知ったり交通ルールを守ることの大切さを理解したりすることができた。しかし、自転車利用生徒がスピードを出し過ぎているという報告が複数あり、繰り返し指導を受ける生徒がいたため、今後も継続した指導・支援が必要である。
	①③		
	いじめや生徒の悩みについて早期発見し、未然防止を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめや悩みなどについて早期発見し、適切な対処につなげる。</li> <li>SNSの正しい使用方法を周知し、トラブルを防ぐ。</li> </ul>	生徒や保護者からいじめにつながる事案についての相談があった際、すぐに関係職員で話し合い、共通理解を図った上で素早く対応することができた。そのため、大きな問題になる前に解決することができた。いじめにつながる事案が複数あったため、相手を思いやる気持ちを育てる指導・支援を更に充実させていけるとよい。
	③⑤		
生徒の心身の健康を守るための体制づくり(保健体育部)	健康に関する教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や委員会活動と連携しながら、生徒一人一人が自分の健康に関心をもち、主体的に体調管理に取り組むことができるようにする。</li> </ul>	生活や健康についてのアンケートを実施し、生徒たちの健康課題を把握した。委員会活動で生徒たちが健康課題についての掲示物を作成し発信することで多くの生徒が健康について関心をもつことができた。 第1回学校保健委員会では、1年生生徒、保護者を対象に外部講師による「歯と口の健康教室」を開催した。今後も家庭と連携するために、協力を得られるよう工夫をしていきたい。
	①⑥		
	生徒が心の悩みを相談しやすい環境を整備するとともに相談体制を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に悩みを相談できる場を提供し、学校医やカウンセラー、ソーシャルワーカーにつなげていく相談体制を構築する。</li> </ul>	抽出の自立活動の時間や学校医によるメンタルケア等で生徒の話を聞く機会を設定したことで、生徒の悩みや変化に気付くことができた。自殺願望や自傷等の案件については、生徒指導部と連携し生徒指導委員会を開き情報共有をし、関係機関に迅速につなげることができた。話をしたい教職員に悩みや困りごとを相談できる「心のオアシスタイム」の実施回数は少なかった。生徒たちがより積極的に利用できるように工夫をしていきたい。
	①⑤		
進路指導の充実(進路指導部)	キャリア教育推進と生徒の社会参加に必要な資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業情報ファイルや職員の業務体験などデータ化した資料の活用を進める。</li> <li>企業、福祉的事業所、市役所など関係機関との連携を強化する。また、保護者や生徒向けの進路説明の充実を図り、内容や時期について検討し情報を提供する。</li> </ul>	進路説明会、現場実習説明会、進路相談などを通じて、企業訪問や学校見学等で得られた企業情報を保護者に提供した。生徒用タブレット端末で企業情報が閲覧できるように環境を整え、図書室には進路コーナーを設置した(総務部と連携)。校内掲示板デジタルツールを利用し、職員に進路情報を定期的に発信した。今後は、生徒の働く意欲や保護者の進路に関する意識の向上につながるよう情報の収集・整理・活用を考えていく。
	④⑤		
健全な職場環境づくり(教頭)	職員が心身ともに健康を維持し、働きがいのある職場環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務内容の精選と効率的な役割分担等を検討し、業務改善を行う。</li> <li>業務内容の可視化を意識した資料作り等に取り組む。</li> </ul>	教職員が健康を大きく崩すことなく、コミュニケーションを取りながら職務にあたることができた。行事については、その目的と内容を中心にして、部全体で3年間を見据えた見直しができた。各校務分掌では、業務内容の可視化を意識し進捗状況の確認や相談が行われた。今後も職員間の対話を大切に、効率的な業務や持続可能な組織運営を推進したい。
	⑦		
総合評価		各項目で一定の評価、改善が見られた。感染症対策については生徒一人一人の健康の維持増進に注視し生徒が主体的に取り組めるように継続した指導ができた。また、ICT機器を活用することで全ての生徒が参加する授業づくりに向けた取組ができた。健康不安を訴える教職員はいなかったが、今後も挨拶を心がけ、対話のある風通しのよい職場づくりに努めたい。やりがいを大切にした業務改善を意識し組織力を高めていきたい。	

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な規範意識と礼儀正しさの育成</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</li> <li>・職員が心身ともに健康を維持し、働きがいのある職場環境</li> </ul>
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な規範意識と礼儀正しさの育成 (部主事)             <p>1年生については、10月の校内実習(1週間)、1月の校内実習(2週間)を経て、「顔を向けて話を聞くこと」「相手に聞こえる声で挨拶、返事をする」「報告するとき姿勢を正すこと」などの態度面の変化が、多くの生徒に見られた。職員室に入室する際にも、姿勢や言葉遣い、立ち振る舞いにも変化が見られ、一つ一つの所作に意識を向けられる余裕を感じられるようになった。</p> <p>学年内では対応の難しい生徒(無断で下校しようとする生徒や、貴重品を担任に預けない生徒、気分が高揚すると面白がって暴言を吐く生徒など)については、生徒指導主事や学年主任と協力し、指導にあたった。受容的な関わりをする一方で、絶対に譲らない一線を示したり、部主事との関わりを日々のルーティンとして「今日もできているね」と認めたりすることで、課題の改善が見られた。</p> </li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 (教務部・総務部)             <p>学びのスローガンについて教員間で確認した。「試行錯誤する学び」では、意図的な「失敗」の場面を設定することで自己理解に迫った。「気付きのある学び」では、「なぜ」「どうして」を生徒と共に考えることで学びを深めた。「伝え合い認め合う学び」では、ICT機器を活用して、他者の意見に触れることで、認め合う学びにつながった。</p> <p>総務部と連携してICT機器の環境が整備されたこともあり、授業では「ロイロノート」が積極的に活用された一年であった。生徒の表出の幅が広がり、また、教員間で学びを深められることを実感できた。今後も活用事例を情報交換するなど授業改善に取り組んでいく。</p> </li> <li>・職員が心身ともに健康を維持し、働きがいのある職場環境 (教頭)             <p>教職員が健康を大きく崩すことなく、対話を大切にしながら職務にあたることができた。また、行事については、その目的と内容を中心にして、部全体で3年間を見据えた見直しができる。今後は業務のスリム化につなげていけると考える。</p> <p>各校務分掌では、業務内容の可視化を意識し進捗状況の確認や相談が校務全体で行われた。業務を遂行する上で、複数で仕事に当たるように工夫している校務もあり、持続可能な組織運営の意識が高まってきている。</p> <p>本年度の取組を継続して、生徒情報や指導方針の共有をして「協働」を基本とした指導を実践し、生徒の成長を分かち合い、働きがいを感じる組織にしていきたい。</p> </li> </ul>
<p>今後の改善方策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な感染防止対策の徹底</li> <li>・ICT機器の効果的な活用</li> <li>・公共交通機関におけるマナー指導</li> <li>・教職員のやりがいを大切にした組織運営</li> </ul>
<p>その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)</p>	<p>【企業の方より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場改善研修でトヨタ自動車の「5回なぜなぜ」分析。「なぜ」を繰り返すことで、本当の原因に気付くという分析方法。授業改善ではまだ「なぜなぜ」2回ぐらいか。もっと学びを深めていけないか。</li> </ul> <p>【社会福祉法人の方より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶はどここの現場でも求められる。自然にできることが大事。しっかりと身に付けてほしい。</li> <li>・入学する生徒が中学校で学んできたことはさまざまである。高校生はある程度人間が出来上がっているため、中学校との連携を考えてほしい。</li> <li>・本宮校舎の生徒はプライドが高いと思われる。失敗を隠そうとし、立ち直りが難しい例がある。</li> <li>・現在では、スマホをきっかけとした金銭トラブルが多い。社会に出ると責任能力は問われるため、今後は消費者教育にも力を入れてほしい。</li> </ul>

	<p><b>【豊川商工会の方より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活を営む上でなぜ規範が必要となるかを理解することから始めなければならない。できたことをほめることが大切だと思う。</li> <li>・IT ツールの活用により学習意欲の向上や効率化を図ることは今後も進めていく必要がある。それは手段であって目的ではない。できたことの達成感や喜びを一緒になって分かち合うことが重要だと思う。</li> <li>・教師としてのスキルとともに情熱と根気が必要な職場である。ノーマライゼーションという言葉も一般的になっているが、宝陵高校とだけではなく地域社会とも積極的に交流を図ってほしいと願っている。</li> <li>・新聞やテレビなどで取り上げられることにより、生徒たちの意欲向上、地域の理解が進むと考えられる。マスコミの活用も進めていけるとよい。</li> </ul> <p><b>【一宮商工会の方より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちが、楽しそうに登校する様子をいつも見ている。交通ルールも守っている。</li> <li>・木工の授業で、生徒が報告する際にベルトサンダーが静止しないうちに他のスイッチを切る動作があった。ベルトサンダーがむき出しなので、危険だと感じた。一連の動作について見直すとうい。</li> </ul> <p><b>【大木町内会長より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶について、前回の見学時と比較すると成長を感じた。挨拶は易しいようで難しい。教師でも難しいことである。挨拶に対する教師の姿勢が大きく影響するので意識してほしい。</li> <li>・授業については、つい正しいことを求めがちになる。失敗から学ぶことに力を入れていくとうい。</li> </ul> <p><b>【PTA副会長より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が子は3年生になってようやくしっかりとした挨拶ができるようになった。3年間で本人なりに心も体も成長が見られた。</li> <li>・本宮校舎ではルールが細かく難しいと感じることもあったが、規範意識は、日々の生活の中で身に付けることがようやく分かってきた。厳しさの中にあっても3年間楽しく学校生活を送った。</li> </ul>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成 企業関係者、社会福祉法人関係者、豊川商工会、一宮商工会、大木町内会、PTA会長</li> <li>・評価時期 2月下旬</li> </ul>

(5) 経営管理上の問題点等

- ア 生徒・保護者に寄り添い、個に応じた指導の充実を図る
- イ 地域資源を生かした学習活動の充実と実施方法の工夫
- ウ 携帯電話の適切な使用及び、インターネットやSNSなどに伴うトラブル予防の指導
- エ 基本的な感染防止対策を徹底し、安全・安心な環境を整備する